

平成30年度  
こころ医療福祉専門学校  
学校自己評価結果報告書

平成31年4月1日

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン  
(平成25年) 準拠

## 1. 学校の教育目標 平成30年度

- 1 ビジョン  
地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる
- 2 ビジョンの実現に向けたテーマ  
地域社会から必要とされる組織であり続ける  
地域社会から必要とされる人材を提供する
- 3 学校経営スローガン 各学科の「専門力を含めた人間としての総合力」の育成
- 4 重点教育目標  
(1) 学生募集—最低目標人数130名  
(2) 「鍛えて伸ばす授業」と「国家試験合格率100%」達成  
(3) 学生の願いに応え得る進路指導と「就職率100%」達成
- 5 具体的な対策  
(1) 授業の充実と教育の質の向上  
(2) 豊かな人間力の育成  
(3) 退学者・不登校生の減少対策  
(4) 国家試験(資格試験)・進路指導の充実  
(5) 留学生の効果的な指導体制の構築  
(6) 「受け身の学生募集」から「攻めの学生募集」へ  
(7) 新PDCAシステム導入による学校活性化
- 6 地域社会との関係  
(1) ビジョンの具体化  
(2) 各校・各関係施設等の「連携」強化と学生に還元できる取り組みの推進

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 学生を「鍛え、育てる指導」の推進と国家試験合格率の向上
- (2) 退学者減少対策の推進
- (3) 「新PDCAシステム」の導入と「組織として機能する学校づくり」の推進
- (4) 各課長・学科長のリーダーシップと行き届いた職員指導
- (5) 「報告」・「連絡」・「相談」の徹底
- (6) 留学生の組織的・計画的な指導の充実
- (7) 日常業務での若手職員の「意識啓発」と「人材育成」
- (8) 新ビジョンに基づく、学校・施設等の「連携強化」と具体化

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1	学校の理念は、学生便覧等にも揭示され明確である。「等しく可能性を信じ」、「専門分野の深い知識」のみならず、「誠実、気力、知恵と行動力」を育むことで「社会に貢献」する姿勢は専門学校の理念として相応しく、相応の人格と専門分野での知識・技能を備えた信頼される人材を輩出することで社会に貢献することが目的である。 【教職員アンケート 質問1 3.97】
・学校における職業教育の特色は何か。	4	3	2	1	各学科とも専門的な経験を積んだ専任教員を中心に、各業界との連携を重視し、理論と実践のバランスのとれた教育を実施している。各業界の現場で活躍する非常勤講師を豊富に揃え、学生に適切な現場実習の機会を提供するよう努めている。
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4	3	2	1	今後、さらに進行する少子高齢化に備え、老人福祉施設、医療機関や地域社会との密接な連携を推進し、社会のニーズに合った将来を見通した学校経営を計画している。
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	4	3	2	1	オープンキャンパス等の入学前ガイダンスを通じて、また、入学後も保護者説明会、オリエンテーション、定期的校内広報紙、HPでの情報公開等を通じて、繰り返し周知を図っている。全校生に対する学生アンケートを利用して、周知状況は確認している。学生や保護者などからの、周知不足によるクレームはない。 【教職員アンケート 質問2 2.60】 【学生アンケート 質問1 2.96】 平均2.78
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	3	2	1	職業実践専門課程の運営にあたり、各学科と関連業界との情報交換は年間を通じての分科会も設定するなど、年々充実しており、将来的な業界のニーズに対する理解も深まっている。卒業生が将来的な業界のニーズにも応えられるように、各学科ごとのディプロマポリシーを定めている。

#### ①課題

関連団体との情報交換、実習等による実践的な能力を有する人材の育成は行っている。  
今後、より地域に貢献できる人材の育成をしていかなければならない。

#### ②今後の改善方策

学生募集にかかる新しいパンフレットでは学校沿革から将来構想まで特集ページを組んで周知を図っていく。それにより、問題意識をもった学生の入学に繋げ、地域での需要に応えられる教育機関としての役割を果たせるよう努めていく。

#### ③特記事項

なし

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (2) 学校運営

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4	3	2	1	地域の医療・福祉を包括的に支援できる教育機関として成長するという岩永学園グループの目的を実現するため、グループ内の社会福祉施設はもちろん、地域の病院、福祉施設、整骨院等の業界との連携を推進し、より実践的な教育を目指した運営方針が策定されている。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	3	2	1	事業計画は、地域の医療・福祉を包括的に支援できる教育機関となるという学校の運営方針に沿って、毎年度初めに2年、3年後までの見直しをもった具体的な事業計画が示されている。
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4	3	2	1	学校運営方針に基づき、各種委員会組織を設置し、定期的な部課長・学科長会議および職員会議を開催し、具体的な活動計画を定めている。 【教職員アンケート 質問3 2.67】
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4	3	2	1	就業規則により明確に定められている。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4	3	2	1	教務担当の教務部と総務部学務課、財務担当の総務部総務課がそれぞれ整備されている。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	3	2	1	地域自治会への積極的参加、教育課程編成委員会等を通じて、業界や地域社会へのコンプライアンス体制が整備されている。
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	3	2	1	教育課程編成委員会、学校ホームページや、学生募集活動におけるガイダンスやオープンキャンパスなどを通じて、積極的に教育活動等を外部に対して情報公開している。求められている内容について、可能な限りの手段で積極的に外部への情報公開をしている。 【教職員アンケート 質問4 3.60】
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	3	2	1	従来から学校内情報システムのネットワークが整備されていたが、現在、より機能を充実させた自社開発の新システムがほぼ完成し、運用を始めている。従来のシステムに比べて、さらに有効に機能している。

#### ①課題

データバックアップ体制の強化。教務学務システムと学生募集管理システムの連携・統合。  
各種委員会制度の実態的機能の向上不足。

#### ②今後の改善方策

業務効率化のため、まず学生募集活動についてクラウド型データベースの活用を実施し、移管・運用できれば教務学務ソフトも検討する。委員会組織を見直し、役割を明確にすることにより学校運営に活かしていく。

#### ③特記事項

なし

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (3) 教育活動

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	3	2	1	本校の教育理念に基づき、関連業界とも連携しながら社会に役立つ人材の育成に向けて、実践的な職業教育を意識して教育課程の編成と実施が実行されている。 【教職員アンケート 質問5 3.17】
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき修業年限や学習時間、目標とする到達レベルが明確にされている。 【教職員アンケート 質問6 3.33】
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき体系的なカリキュラム編成を行っている。 【教職員アンケート 質問7 3.67】
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	3	2	1	キャリアサポーターとして認定されている職員が2名いる。また、教育課程編成委員会等を通じてより実践に近い形での教育が行われるよう工夫に努めている。 【教職員アンケート 質問8 3.30】
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	4	3	2	1	臨床実習や介護実習を通して、産学連携による実践的な職業教育がなされている。 【教職員アンケート 質問9 3.53】
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	3	2	1	前期と後期の終わりに、すべてのクラスで授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を集計し、各教員で供覧し授業改善のPDCAの評価材料としている。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	3	2	1	専門課程はいずれも職業実践専門課程として認可を受けており、教育課程編成委員会およびその分科会も開き、外部評価を受けている。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	3	2	1	学則および各種規程に基づき、成績評価、単位認定、進級判定、卒業判定の基準は明確にされている。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき、資格取得に関する指導体制、カリキュラムなどが体系的に位置づけられている。 【教職員アンケート 質問10 3.37】
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	3	2	1	国家資格の養成施設指定規則に則り、適切な資格要件はもちろん、臨床指導力も優れた教員を確保している。
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	4	3	2	1	教員の一部は、関連業界との連携を深め実践的な知識と技術を維持するように、臨床現場も業務の中に組み込みながら、教育業務とのバランスをとっている。関連業界とは教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会などを通じて、定期的に現場と学校教員との意識や知識の共有を図っている。
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4	3	2	1	教員が関連の主要な学会や研修会に参加して、研鑽を積み取り組みをしている。また、全教職員に対して、全般的な指導力向上のための研修を定期的に行っている。 【教職員アンケート 質問11 2.50】
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4	3	2	1	1月、3月に全職員による教職員研修会を開催した。その他、必要に応じて教職員を選び適宜、外部の研修に参加させている。 【教職員アンケート 質問12 2.70】

#### ①課題

職員の資質向上のための研修は多く参加出来ているが、研修内容を社内スキームに落とし込む作業が不足している。

#### ②今後の改善方策

研修についてレポート提出に留まらず、学校内業務に活かす落とし込みを求め、その主体性を評価していく。

#### ③特記事項

なし

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (4) 学修成果

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・就職率の向上が図られているか。	4	3	2 1	就職率は各学科とも毎年、100%と高い水準で維持されている。 【教職員アンケート 質問13 3.50】 【学生アンケート 質問2 3.44】 平均3.47
・資格取得率の向上が図られているか。	4	3	2 1	資格取得率の向上は図られている。今年度の国家資格試験の合格率は、全体的に昨年以上の結果であり、合格率100%の国家試験もあった。 【教職員アンケート 質問14 3.10】 【学生アンケート 質問3 3.66】 平均3.38
・退学率の低減が図られているか。	4	3	2 1	問題を抱える学生およびその家族とは頻りに面談を行い、退学率の低減に努めてきた。今年度の除籍を含む退学者は在校生357名中19名で、退学率は5.39%と、昨年の6.8%からは減少させることはできた。 【教職員アンケート 質問15 3.07】 【学生アンケート 質問3 3.21】 平均3.14
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	3	2 1	卒業生の業界での活躍の情報を在校生に周知し、学習意欲の向上にある程度役立っている学科もあるが、取り組みがまだ充分とは言えない学科もある。 【教職員アンケート 質問16 3.13】 【学生アンケート 質問4 3.21】 平均3.17
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2 1	同門会組織が充実して、卒業生の体験を聞く機会が多い学科もある。その他の学科でも、外部講師による講習会を実施の際は、卒業生も広く呼びかけ、キャリア形成の促進に努めている。 【教職員アンケート 質問17 3.53】 【学生アンケート 質問5 3.24】 平均3.39

#### ①課題

国家試験合格率及び就職率は概ね目標とする数字に近づきつつあるが、継続性を担保できるかは今後の課題である。  
卒業後キャリア形成の活用度合いについて、学科によりばらつきがある。

#### ②今後の改善方策

高い国家試験合格率維持のため、低学年時から、これまで以上に国家試験合格を意識した授業を展開する。さらに実習や外部講師により授業等を通して現場に触れる機会をより多く設けて、職業意識を高めていく。  
卒業後キャリア形成のため、「卒業教育」担当委員会を新たに設置する。

#### ③特記事項

なし

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (5) 学生支援

評価項目	適切: 4, ほぼ適切: 3, やや不適切: 2, 不適切: 1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	3	2 1	関係企業に呼びかけ校内で就職説明会を開くなど、在校生の就職活動を支援している。また、卒業後も学園グループの人材紹介事業会社を通じて就職活動の支援に努めている。 【学生アンケート 質問2 3.44】
・学生相談に関する体制は整備されているか。	4	3	2 1	クラス担任を通じた相談、心理カウンセラー窓口を通じた相談等、複数の相談窓口を整備している。 【教職員アンケート 質問18 3.13】 【学生アンケート 質問7 3.38】 平均3.26
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	3	2 1	各種の学校独自の授業料減免制度に加え、各種奨学金申請及び採用にかかわる手続きの支援を積極的に行い、並行して経済的状况に応じた校納金納納の相談にも応じている。 【教職員アンケート 質問19 3.70】 【学生アンケート 質問8 3.34】 平均3.52
・学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	3	2 1	定期的な健康診断はもちろん、常勤看護師を中心とした衛生管理、生活指導委員会を中心とした安全・衛生指導を通じて、学生の健康管理の指導を徹底している。 【教職員アンケート 質問20 3.10】 【学生アンケート 質問9 3.11】 平均3.10
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	3	2 1	支援制度により学生団体活動が整備されていて、有効に機能している。 【教職員アンケート 質問21 3.17】 【学生アンケート 質問10 3.16】 平均3.17
・学生の生活環境への支援は行われているか。	4	3	2 1	遠隔地からの学生には、近隣の不動産業者の紹介を行うとともに、特に島原地区からは往復のスクールバスを運行している。また、最寄の駅から学校へのスクールバスを運行して、遠隔地からの通学者の支援を行っている。 【教職員アンケート 質問22 2.87】 【学生アンケート 質問11 3.11】 平均2.99
・保護者と適切に連携しているか。	4	3	2 1	入学前からの面談、入学後の保護者説明会、成績状況に応じた適宜の保護者面談等を通じて、保護者との連携を重視している。 【教職員アンケート 質問23 3.27】 【学生アンケート 質問12 3.17】 平均3.22
・卒業生への支援体制はあるか。	4	3	2 1	不定期ながら、主に卒業生を対象に上級の専門知識や技能の公開講座を開いている。また、卒業生に対しても、就職や転職の情報交換の場を提供し、卒業後の支援にも努めている。 【教職員アンケート 質問24 2.93】 【学生アンケート 質問13 3.17】 平均3.05
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	3	2 1	学校が高台中腹にあり、通学に若干負担があるため、働いている社会人が多い夜間部の学生には、校内への車の乗入れを許可制にしている。また、最寄り駅に、迎えのスクールバスを出している。 【教職員アンケート 質問25 3.13】 【学生アンケート 質問14 3.16】 平均3.15
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4	3	2 1	高校でのガイダンス授業に加え、今年度から高校の要望に応え正規の時間割での定期的な出前授業を実施している。 【教職員アンケート 質問26 3.30】

#### ①課題

中退率を抑制できている一方で、卒業生への支援体制はアンケート評価が低く改善しなければならない。卒業生ネットワークの整備が必要。

#### ②今後の改善方策

中退率抑制を目的に入学前教育を開始する。また、入学前教育での成績不良者に対し、学習への向き合い方や生活習慣の作り方まで指導していく。卒業生には「卒業教育」担当委員会での継続的な活動により支援していく。

#### ③特記事項

なし

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (6) 教育環境

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・施設・設備は, 教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。	4 (3) 2 1	施設基準は満たしており, なおかつ教室および共有区域などはスペースを確保している。備品の一部には開校以来の物もあり, 老朽化しつつあるものもあるが, 教育上の支障がないよう, 備品管理委員会が中心となって適時, 更新している。 【教職員アンケート 質問27 2.53】 【学生アンケート 質問15 3.12】 平均2.83		
・学内外の実習施設, インターンシップ, 海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	4 (3) 2 1	学外の必要な臨床実習施設は確保している。 【教職員アンケート 質問28 3.17】 【学生アンケート 質問16 3.17】 平均3.17		
・防災に対する体制は整備されているか。	(4) 3 2 1	防災訓練は最低年1回は全校で実施している。各設備の防災責任者が定められている。毎年度, 防災組織の指示系統が更新されている。		

#### ①課題

施設・整備に対するアンケート回答では教職員が不足感を感じている。

#### ②今後の改善方策

昨年開始した柔整科・鍼灸科による臨床実習指導者講習会参加者との連携を進めていく。  
在籍者数減少による学校財務の許容される範囲内にて更に安定した教育環境の構築に向けて設備投資を進めていく。

#### ③特記事項

なし



### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学生募集活動は、適正に行われているか。	4	3	2	1	高校新卒者の募集にあたって、入学試験を10月以降に実施しているが、出願については県の専門学校各種学校連合会での取り決めに沿う必要がある。その他、学生募集は適正に行われている。
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	3	2	1	学生募集活動において、卒業生の就職率、資格試験の合格率、退学率など、正確に伝えられている。 【教職員アンケート 質問30 3.77】
・学納金は妥当なものとなっているか。	4	3	2	1	本校の学納金は、同分野の他の学校の平均的な水準と同等である。 【教職員アンケート 質問29 3.47】 【学生アンケート 質問17, 18 3.24】 平均3.36

#### ①課題

専門学校入学者は全国的に減少しており、中でも本校学科分野は減少幅が大きい(柔道整復師・介護福祉士)学校認知と並行して、職業理解を進め潜在的なニーズの掘り起こしを同時に実施しなければならない。

#### ②今後の改善方策

募集活動全体の変化に対応していく。具体的にはガイダンス等での接触中心から、WEB着地点など、学生情報の受け皿を整備していく。また、高等学校等の連携も深めていく。在校生の成績状況や就職先情報など高専接続にふさわしい情報を伝え、進路先として信頼されるように取り組む。

#### ③特記事項

広報予算-15%を目標とする。(コスト削減を図りつつ、効果的な広報活動を実施する)

3. 評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	3	2	1 少子高齢化の中, 入学者数の確保のため学科等の教育内容の刷新を行うとともに, 経費の圧縮等で財務基盤の安定化を図っている。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	3	2	1 予算作成に際して, 理事長査定を実施し, 適切な予算管理を行っている。
・財務について会計監査が適性に行われているか。	4	3	2	1 適時, 内部監査を実施している。
・財務情報公開の体制整備はできているか。	4	3	2	1 公開している。

①課題

なし

②今後の改善方策

なし

③特記事項

なし

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (9) 法令等の遵守

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・法令, 専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4	3	2	1	学校教育法, 養成施設指定規則等の法令に従った適正な運営がなされており, 申請書, 届出書, 学校運営に係る記録等は確実に保管されている。国や県の監督部署の指導調査で指摘された事項は改善されている。
・個人情報に関し, その保護のための対策がとられているか。	4	3	2	1	学生個人調書等の個人記録は施錠できるキャビネットに保管して部外者のアクセスを防止すると共に, 情報の持ち出しを禁じている。全職員を通じて, 個人情報管理意識の向上に努めている。
・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	3	2	1	学校自己評価委員会の下, 各項目に対して, 自己評価を実施し, 各部局, 学科でそれぞれの問題点は具体的に把握し新委員会による横断的な点検と改善も併せて推進している。
・自己評価結果を公開しているか。	4	3	2	1	自己評価結果は学校ホームページ上で公開している。

#### ①課題

社内ネットワークセキュリティの向上は引き続き課題が残る。また, 個人情報保護の必要性は年々高まっているが, 組織的な取組みはまだ十分とは言えず引き続き対策が必要である。

#### ②今後の改善方策

ネットワークセキュリティについては, まずクラウド型学生募集データベースの活用を実施する。個人情報保護については, 再度ルールの理解徹底に努めていく。

#### ③特記事項

なし

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
<p>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。</p>	4	3	2	1	<p>外部講師の講習会等で学校の教育設備を利用していただいたり、学生の地域ボランティア活動や、学校設備の地域自治会への利用、災害予防のための一時避難場所等の提供を行っている。 【教職員アンケート 質問31 3.87】</p>
<p>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。</p>	4	3	2	1	<p>ボランティア募集情報を全学生にも周知し、地域ボランティア依頼の受入れ、実施のシステムを構築している。学校を通じたボランティア募集による活動は、必要に応じて教員も引率を行い、把握している。 【教職員アンケート 質問32 3.67】 【学生アンケート 質問19 3.23】 平均3.45</p>
<p>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。</p>	4	3	2	1	<p>職業訓練校からの委託を受けて受講者の教育を積極的に実施している。健康講座など一般向け講座も独自に企画し地域の自治会で開催しており、成果は参加者アンケートを取り、評価されている。受託事業の管理と報告は適性になされている。 【教職員アンケート 質問33 4.17】</p>

#### ①課題

スポーツセラピスト科の募集停止に伴い、スポーツイベントへのボランティア派遣が難しくなっている。また、各種ボランティアへの協力依頼についても参加学生が減少している。

#### ②今後の改善方策

外部からのボランティア要請については、従来の学科単位ではなく学校主体の活動として変化させていく。「地域創生委員会」を窓口として、断わらない対応を目標に掲げ、各担当委員会を中心に教職員が学生を巻き込んでいく。

#### ③特記事項

なし

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (11) 国際交流

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか。	4	3	2 1	外国人留学生が資格取得可能な学科については、留学生の受入れを積極的に行っている。資格取得学科に進学が可能となる日本語科も平成30年度から設置している。
・留学生の受入れ・派遣, 在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	4	3	2 1	外国人留学生の受入れに関し、専門の職員を配し、現地での慎重な審査を行ったうえで適切な入国管理手続きを行っている。在校生については日々の記録を整備し、適切な在籍管理を行っている。 【教職員アンケート 質問34 3.17】
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4	3	2 1	留学生担当の職員を配するほか、学科を横断した教員による留学生の学習, 生活指導担当の委員会を作り、全校をあげての組織的な取り組みを行っている。 【教職員アンケート 質問35 2.73】
・学習成果が国内外で評価される取組を取っているか。	4	3	2 1	国際的な取り組みは、そこまで至っていない。 【教職員アンケート 質問36 2.10】 【学生アンケート 質問20 2.10】 平均2.10

#### ①課題

留学生在籍者数が増加するにあたり, 学校としての管理体制構築が急務となっている。

#### ②今後の改善方策

留学生生活指導担当者を配置し, 学内及び学外での留学生管理を進めている。また, 経験事例を積み重ねることにより, ケースデータを蓄積し, 予防的な対応がとれるようにしていく。併せて, 日本語科卒業後の進路開拓を行う。

#### ③特記事項

なし

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

##### 平成30年度重点目標に対する総括

- 「(1) 学生を「鍛え、育てる指導」の推進と国家試験合格率の向上」について。
- 年間を通してPDCAシステムを導入し、各学科指導力と教育の向上に学校を挙げて取り組んだ。学科長と管理職のヒアリング(毎月1回)、模擬試験後の模試結果分析会、学力検討会等を開催し学生の学力の実態把握に努めた。
  - 「国家試験は低学年から」を合言葉に、学生意識化を図り、3年間の見通しをもった計画的・組織的・継続的指導に努めた。
  - 本年度国家試験合格率については次の通りであり、昨年より大幅に向上した。理学療法士83%、介護福祉士67%(日本人80%、留学生17%)、柔道整復師84.6%(昼間部100%、夜間部70%)、はり師100%、きゅう師93%(昼間部90%、夜間部100%)
  - 「入口」→「中身」→「出口」の保証を意識し独自の取組を推進した。「専門力を含めた人間としての総合力」を育むことに配慮し教育をした成果は、各学科の就職率100%と各課の高い求人倍率に反映されている。
- 「(2) 退学者減少対策の推進」について。
- 本年度の重点目標として取り組んだが、平成30年度末の退学者は20名であった。(平成28年度28名、平成29年度24名)
  - 本年度は、20名中15名が1年生で退学者全体の75%を占めている。
  - 退学の理由は、進路変更11名、学業不振5名、学校生活不適応2名、病気・怪我が2名である。
  - 学生の学力低下、多様化は年々顕著になっている現状に鑑み、入学時の「導入期指導」、「個別面談」、「オリエンテーション」、「家庭訪問」等意を尽くした結果である。
  - 特に、昨年度は、留学生が退学者の24%を占めていたが、きめ細やかな指導等の結果、生活の安定に繋がったことが、退学者が減少した主たる要因である。
  - 今後は、更に、「導入期の指導」の工夫や担任や学科の指導力の向上が必要である。
- 「(3) 「新PDCAシステム」の導入と「組織として機能する学校づくり」の推進」について。
- 「組織として機能する学校づくり」を意識し、「新PDCAシステム」を導入して「課題処理型学校経営」から「課題発見型学校経営」を目指した。特に、各課各学科の月の取組み項目を一覧にした「こころのDO!」を教職員の月毎に配付して教職員の意識化に努めた。
  - 特に、毎月、取り組みの進捗状況を確認するために、管理職による学科長のヒアリングを実施したことは、国家試験結果や教育の質の向上、教職員の組織的な対応等一定の成果を得ることができた。また、本校の諸課題を掘り起こすことができた。
  - 次年度は、取り組んできた「新PDCAシステム」の成果を踏まえ、発展的に解消し、「委員会制」を導入し、専門化、スピード化、責任の明確化等に努め、更なる学校活性化に繋ぐこととしている。

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

##### 平成30年度重点目標に対する総括

- 「(4)各課長・学科長のリーダーシップと行き届いた職員指導」について。
- 「調整型学科経営」に加えて、「指導助言型学科経営」への転換は、一つの課題と考え、自立的な課・学科を目指す必要があった。  
特に、各学科の専門性、主体性を保証し、学科中心の学校経営をしている現状から考えれば、各課長、学科長のリーダーシップは不可欠であると考えている。
  - 「教職員研修会」(年3回)、月1回の管理職との「PDCAヒアリング」等を通して、指導助言・支援はできたものの、特別な成果に繋ぐ取り組みは十分ではなかったと反省している。
  - 次年度は、ミドルリーダー育成を意図した「中間管理職研修」の機会を充実して、更なる学校活性化を図らなければならない。
- 「(5)「報告」・「連絡」・「相談」の徹底」について。
- 月1回職員会議を開催し、全職員で情報等を共有できている。
- 「(6)留学生の組織的・計画的な指導の充実」について。
- 日本語科、介護福祉科に64名の留学生が在籍しており、留学生の学習・生活・アルバイト等の支援する親身な関わりが不可欠であった。
  - 「留学生指導マニュアル」の作成、指導の在り方研修、学科会の開催、留学生連絡調整会議の開催等の充実を図った。
  - 学園内の日本語科が留学生事業の効果的な推進を意図し「留学生調整連絡会議」を2ヶ月に1度開催し、留学生指導研修、問題解決研修、寮生活を含めた生活指導の共通理解、定期的な教員研修、模擬試験の共同実施、学園内日本語スピーチ大会開催など実施し、成果を挙げる事ができた。
  - 小学生との交流研修や地域清掃、精霊流し、連合自治会体育祭、餅つき大会等のボランティア活動等で、地域には「留学生は地域の一員である」という認識を深める事ができた。
- 「(7)日常業務での若手職員の「意識啓発」と「人材育成」」について。
- 教員としての資質と授業力の向上の狙いとして、5月～10月にわたって「新入教職員研修会」を年9回、各学科内での「授業研修」を年4回実施した。
  - 研修を通して、新入職員の意識啓発、所属感の高揚に繋がり、また、PDCAシステム等の本校独自の取り組みの理解に繋がった。
- 「(8)新ビジョンに基づく、学校・施設等の「連携強化」と具体化」について。
- 学生の併設老人ホームとの連携(年3回)、日本語科の3校連携、介護福祉科教員による施設職員への技術指導研修(年3回)、関係高等学校との授業連携、学園合同教職員研修会(年3回)等の取り組みができた。

## 1. 学校の教育目標 平成31(2019)年度

- 1 ビジョン  
地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる
- 2 ビジョンの実現に向けたテーマ  
地域社会から必要とされる組織であり続ける  
地域社会から必要とされる人材を提供する
- 3 学校経営スローガン 「粘り強く、面倒をみる学校づくり」
- 4 重点教育目標
  - (1) 国家試験合格率及び就職率100%の達成
  - (2) 「授業の充実」と「教育の質」向上
  - (3) 「委員会制」導入による学校活性化
  - (4) 留学生事業の充実とJLPT2級・3級合格者の増加
  - (5) 学校体制として取り組む学生募集-最低確保学生数:130名
- 5 具体的な対策
  - (1) 授業の充実と教育の質の向上
  - (2) 豊かな人間力の育成
  - (3) 退学者・不登校生の減少対策
  - (4) 留学生教育の質の向上
  - (5) 国家試験・進路指導の充実
  - (6) 「攻めの学生募集」の推進
  - (7) 「委員会制」の導入による学校活性化
- 6 地域社会との関係
  - (1) ビジョンの具体化
  - (2) 関係各校, 機関, 施設との連携強化



## 2. 平成31(2019)年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### (1) 授業の充実と教育の質の向上

- ①「授業の質」の向上を通じた学生や保護者の願いに応える教育の推進
- ②教員の「授業研究」の推進と「学級経営力」と「学生指導力」のアップ
- ③学生の多様化・学力低下傾向に対する早期対応策と粘り強い指導の推進

### (2) 豊かな人間力の育成

- ①学級経営の充実と学生同士の人間関係, 学生と教職員の信頼関係の構築
- ②学園理念を意図した社会貢献活動と地域交流及びトレーナー活動等の推進

### (3) 退学者・不登校生の減少対策

- ①個別面談(年3回以上)実施と学生一人ひとりの存在感を高める指導
- ②定期的な「悩み調査」(年3回)の実施と学生理解の深化

### (4) 留学生教育の質の向上

- ①日本語指導力と日本語検定能力試験合格率の向上
- ②寮生活を含めた留学生の基本的な生活習慣の確立と学園内連携の強化

### (5) 国家試験・進路指導の充実

- ①国家試験対策
  - 各学科の「国家試験年間指導計画」に基づく計画的・組織的な指導の推進
  - 「模擬試験結果分析会」と「学力検討会」の充実と個別面談の実施
- ②就職対策
  - 個別面談と年間指導計画に基づいた就職指導と「キャリア教育」の推進
  - 「卒後教育」の充実

### (6) 「攻めの学生募集」の推進

- ①高校との関係強化と信頼関係の構築-学校訪問・情報提供・広報啓発等
- ②学校体制としての学生募集の推進
- ③学生募集「強化校」としての拠点づくり

### (7) 「委員会制」の導入による学校活性化

- ①学校自己評価(年2回)による問題解決と学校活性化
- ②「組織として機能する学校づくり」と職員個人のスキルアップ